

# 組合 NEWS

Faculty and Staff Union of Kanazawa University  
金沢大学教職員組合執行委員会  
金沢市角間町  
Tel.076-262-6009(FAX同じ) / 角間内線2105  
E-mail kanazawa@ku-union.org  
ホームページ http://www.ku-union.org/

2015年8月28日

通巻1233号

## この号の内容

- 安全保障関連法案
- 全大教教研集会

# 民意にそむく

No!! No!! No!! No!!  
No!! No!! No!! No!!  
No!! No!! No!! No!!

# 安全保障関連法案に No!!!

現在、安全保障関連の法案が参議院の委員会で審議されています。衆議院で強行採決したのち、安倍首相みずから「国民の理解は得られていない」ことを認め、「参議院での審議を通じて国民の理解を得たい」と言わざるを得なかった法案です。衆議院通過から40日余り、国民の理解は進んだのでしょうか。逆にこの間、首相周辺の不適切な発言(=本音)が相次ぎ、国民の反発はますます強くなっています。

日本の平和を守るために「戦争のできる軍隊」が必要か否かについては、あるいは議論が分かれるかもしれません。しかし、

軍隊が必要だと考える人たちの間でも、この法案に反対する声は小さくないようです。それは、この法案の成立が立憲主義を踏みにじるだけでなく、民意の尊重という民主主義の根幹を揺るがすものであるからです。

そもそも安倍首相は「国民の理解が得られなければ廃案にする」と明言した上で参議院の審議に臨むべきです。さもなければ、「参議院の審議など眼中になく、どうせ60日後の衆議院再可決で済ますつもりでしょ」と、国民は白けた思いをもって国会の動きを眺めるばかりで、理解は深まりません。

## 小さな声を大きな声に!

こうした情勢の中、本学では「安保法案に反対する金沢大学の会」が発足し、7月24日に声明(次ページ以下参照)を発表しました。私たちは学内の動静を伝達する媒体の一つである組合ニュースの発行者として、この情報を広く教職員のみなさんにお伝えすることが必要であると判断しました。

組合員であるか否かに関わる問題ではありません。ひとり人間として、この民主主義を破壊する法案の成立を座視すること

はできません。日本の将来に悔いを残さぬように、いつの日か子どもたち、学生たちに“あのとき私はこうした”と胸を張って言えるように、いま何をすべきか、これを機に改めて考えようではありませんか。

私たち一人ひとりの声は小さいものですが、何百、何千と集まれば大きな声になります。傍観者ではいられないみなさん、どうぞ声を上げてください。

次頁に署名の案内があります





# 安保法案反対の 署名にご協力ください

HPから電子署名ができます

<http://anpohantaikindai.wix.com/anpohantaikindai>

安保法案に反対する金沢大学の会

検索



## 安全保障関連法案の強行採決に抗議し、 その廃案を求めます

2015年7月16日に、安全保障法制に関わる11もの法案が衆議院本会議で可決されました。私たち「安保法案に反対する金沢大学の会」は、本法案の強行採決に強く抗議し、その廃案を求めます。

「戦争をする国」への転換を意図する本法案は、これまで日本社会に生きる人々が継承してきた平和への意思を根こそぎ否定するものです。明治以降の一連の戦争に対する痛苦の反省を胸に、戦後日本社会は「戦争をしない国」へと生まれ変わることをめざし、保守から革新までの間で一定の合意を積み重ねてきました。戦時期、高等教育機関は、多くの若者を戦場に送り出し、軍国体制に寄与する研究を推進しました。金沢大学を含む戦後の大学は、そうした戦前の高等教育に対する強い反省の下に、学問の自由と大学の自治のもとで、平和で民主的な社会の創造に寄与する真理を探求することを目指してきました。もちろん、戦後日本社会の平和への取り組みをそのまま肯定で

きるかといえば、そこは議論になるでしょう。しかし、だからこそ、私たちは、戦後70年を迎えてもなお、これまで培ってきた文化を継承しながらも、暴力の連鎖を止め、多くの国の人々を犠牲にした惨禍を二度と起こさないという強い決意とともに、人間の尊厳、自由および正義をめぐる認識を深化させるべく努力を続けていかなければならないのです。本法案は、そうした私たちの意思とは真逆の方向へと舵を切るものであり、反対せざるを得ません。

そもそもこの法案は、この国の根本体制である日本国憲法と、歴史的に築き上げられてきた立憲主義をないがしろにするものです。既にメディアなどで報道されているとおり、圧倒的多数の憲法学者、内閣法制局長官経験者を含む多数の法律の実務家は、この法案が日本国憲法第9条に違反していると主張しています。いわゆる「砂川判決」の部分的な文言だけ

で正当化しようとする与党の説明は、憲法違反への疑問を解消するものとはどうもいえません。かつての自民党の重鎮までもが、安倍政権を批判し始めているのはそのためです。安保法制への反対を表明する学者（「安全保障関連法案に反対する学者の会」）は、既に10000人を超え、日々増えつつあります。これは、知性と学問的真理を軽視する権力者に対して、学問にたずさわる者たちが理性的な怒りを表明したものです。真理が権力者の恣意によってねじ曲げられることがあってはなりません。

そして、何より、専門家だけでなく、日本社会に生きる多数の人々が、この法案の成立に強く反対しています。国会前では連日のように、安保法案に反対する多くの人々が集っており、地方議会でも法案の反対や慎重な審議を求める声明が次々と決議されるなど、安保法制反対の声は全国各地で日ごと高まっています。各種メディアの世論調査でも、安保法制

を疑問視する人々が多数を占め、国会論戦が行われる中で、安倍政権に対する支持率も急降下しています。にもかかわらず、与党は、大多数の国民の声を無視し、法案を衆議院で強行採決しました。これは、民主主義の根幹をゆるがす暴挙にほかなりません。私たちは、この国の民主主義を守るためにも、声を上げたいと思います。

金沢大学は、世界の平和と人類の持続的な発展に資することを理念とし、「地域と世界に開かれた」大学として、常に社会を生きる人々の営みから学びながら、学問真理を探求すると同時に、その真理を人々と分かちあうために、不断の努力を重ねてきました。現在の安全保障関連法案はこの金沢大学の理念に著しく反するものと判断せざるを得ません。私たちは、安全保障関連法案の強行採決に強く抗議すると同時に、同法案を廃案にすることを強く求めます。

2015年7月24日 安保法案に反対する金沢大学の会

呼びかけ人（50音順）

碓山 洋 石黒盛久 市原あかね 入江浩司 岩本健良 岡田 努 小澤裕香 數見由紀子  
河合隆平 北岡和代 城戸照彦 喜成年泰 木綿隆弘 小林信介 澤田茂保 澤田 幹  
少作隆子 末松大二郎 杉田真衣 杉山欣也 瀬尾 崇 都野展子 鶴園 裕 土井妙子  
中島健二 中谷壽男 名古道功 能川泰治 早川文人 細見博志 弁納才一 松田洋介  
宮崎悦子 柳原清子 山崎友也 山本英輔 結城正美 横山壽一 吉田国光 米山 猛

署名にご協力ください



# 全大教 第27回教職員研究集会のご案内

日時 9月11日（金）13：00開会  
～13日（日）11：30閉会  
会場 金沢大学  
（角間キャンパス人間社会第1講義棟）



## 集会日程

- 9月11日（金） 全体集会 13：00～15：30  
記念講演「広がる格差・進む貧困化の中での高等教育の展望（仮）」  
講師 小林 雅之 氏（東京大学 大学総合教育研究センター教授）  
A 分科会 16：00～17：30  
全体交流会 18：00～19：30
- 9月12日（土） A 分科会 9：30～11：30  
女性部総会・交流集会 12：00～14：00  
C 分科会（自由報告） 12：00～14：00  
B 分科会 14：30～16：30
- 9月13日（日） B 分科会 9：30～11：00  
閉会集会 11：15～11：30

## 分科会のテーマ

### A分科会（テーマ別）

- (1) 高等教育：大学・高等教育の転換点  
にあって考え行動するために
- (2) 大学における教育実践の課題
- (3) 教員養成系大学・学部問題
- (4) 教職員の賃金・労働条件を守り向上  
させるためのたたかいと団体交渉の進  
め方
- (5) 男女共同参画：ワーク・ライフ・バ  
ランスを実現するために

### B分科会（職種別）

- (1) 組合の拡大と強化：大きく、強く、楽し  
い組合を目指して
- (2) 教員の待遇・労働条件と教育研究環境
- (3) 事務職員
- (4) 技術職員：昇格改善実現に向けて
- (5) 図書館職員
- (6) 大学共同利用機関
- (7) 附属学校
- (8) 非常勤職員

\* プログラムの詳細は、組合のHPをご覧ください。

\* 参加ご希望の方は、組合事務所までご連絡下さい。

金沢大学教職員組合

電話 076-262-6009（FAX同じ） 角間内線 2105  
E-mail kanazawa@ku-union.org